

# 癒しの里 菊池

**新年**明けましておめでとうございませう。市民の皆さまには新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の正月は、新型コロナウイルス感染症拡大で帰省を待ち望んでいた家族の願いが叶わず、寂しい思いをしているご家庭もあるかと思ひます。この新型コロナウイルスは、昨年1年間で瞬く間に全世界で感染が拡大し、多くの尊い命が奪われました。国内でもこれまでに2500人を超える人が亡くなられ、経済面でも企業倒産や解雇、賃下げなどで事態はますます深刻化しています。本市においても、各方面への支援策を講じていますが、宿泊業や飲食業などを中心に回復の状況は見えず、なお一層の支援が必要と思ひます。

このようなかで、議会では、令和2年3月定例会での一般質問の取りやめや、その後の定例会での傍聴者数の制限、本会議・委員会への執行部の人員制限など、さまざまな形で新型コロナウイルス感染対策を行い、審議してまいりました。また、市民の皆さまから直接意見をお聞きする重要な議会報告会は、やむを得ず開催を断念し、各委員会の研修などにおいても中止せざるを得ませんでした。議会活動がこのように制限されたことは誠に残念です。

さらに、昨年は全国で豪雨災害が多発しました。中でも7月の県南部の豪雨災害では、65人の尊い命が奪われ、現在も2人が行方不明です。また、全半壊家屋だけでも4500棟以上と甚大な被害を受けました。半年経った現在でも、未だに不自由な仮住まい生活の人が多数います。生活再建への道はまだ遠く、1日も早い復旧復興を祈るばかりです。本市でも家屋の浸水や道路、農地などに大きな被害が発生し、近年、百年に一度といわれる豪雨災害が毎年のように発生しています。このことは、地球温暖化対策を後回しにしてきた人類に対する警告ではないでしょうか。今後、私たちの地球環境保護への認識と行動が自然災害の減少に繋がると思ひます。



令和3年 元旦  
菊池市議会議員 大賀慶一

## 市民から信頼される 議会を目指して

菊池市議会議員 大賀慶一

# 謹賀新年

**新年**明けましておめでとうございませう。気持ちも新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を振り返ってみますと、歴史的かつ世界的な激動の1年だったと思ひます。新型コロナウイルス感染症は世界各地で多くの死者を出し甚大な被害、混乱をもたらしました。さらに、自然災害は激甚化し、県南を襲った集中豪雨は甚大な被害を及ぼしました。

本市での昨年を振り返ると、コロナ禍により各産業が大きな打撃を受け、経済も暮らしも本当に苦しい1年でした。こうした苦境を乗り越えるため、さまざまな支援策を講じ、官民一体となり全力で取り組んでまいりました。市民の皆さまのご理解とご協力に対し、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。厳しい状況の中ではありましたが、アフターコロナに対応できる新たな観光拠点の整備など将来のための重要な事業に取り組みました。昨春には菊池渓谷にビクターセンターを開所し、秋には竜門ダム湖畔にキャンプ場を開設しました。また、泗水支所の改

装と旭志支所の建て替えが終わり、こども健診センターをオープンさせ、子育て環境の一層の充実を図りました。さらに、長年の懸案であったつまごめ荘の民営化もスムーズに実現することができました。しかし、今年の市政運営は過去に例のない一段と難しい運営になりそうです。命を守ることを最重点に置きながら、経済も維持していかねばならない。未知のウイルスとの闘いが続き、いつ出口が見えるのか誰にも分かりません。一部の国では新ワクチンの接種が始まり、日本でも本年前半にはワクチンが入手できる見通しとなるなど、明るい話題も出てきました。しかし、ウイルスについては不明な点が多く、コロナ禍を前提にした「新しい生活様式」に切り替えて防衛していく他ありません。すでに仕事や暮らしのあり方が根本から変わり始めています。デジタル行政などが加速度的に進み、今より合理的で利便性の高い社会が出現してくると思ひます。新しい社会への不安は当然あると思ひますが、「誰一人取り残さない」理念で、全ての人が楽



令和3年 元旦  
菊池市長 江頭実

## 逆境をチャンスに！ 前を向く一年に

菊池市長 江頭実